

希望の種

ふくおかNPOファイル

⑦

「伍切りってどうやって使うの?」。小学生の女の子からそう尋ねられ、九州工業大学の学生だった大久保大助さん(41)はがくぜんとしたそうです。20年前、少年自然の家でボランティアに参加した時でした。

便利な道具の普及や親の先回り、現代の子どもたちは生活に必要な体験が不足しがち。自分で何も作業できず、考える力も低下している。大久保さんは体験活動を重視した私立小学校のスタッフなどを経て、2009年から馬島(北九州市小倉北区)で小学生向けの生活体験の場となるキャンプ活動をスタート。3年後に「KID's work」

KID's work

事務所=北九州市小倉南区▽電話番号=080(5201)0412
メールアドレス=daisuke.kidswork@gmail.com

ork」としてNPO法人化しました。

馬島のキャンプは夏休み期間ですが、このほかにも子どもたちが集団生活しながら学校に通う5泊6日の通学合宿にも取り組んでいます。場所は、小倉南区にある民家を改

体験で生きる力養う

築した体験施設「みかんの家」です。

ここで、子どもたちは水くみから始め、かまごで火をおこしてご飯を炊き、まきを集めて割って風呂を沸かし、掃除、調理、配膳、片付け、掃除も、分らないところはスタッフに教えてもらいながら。普段は蛇口をひねれば水が出てくる生活を送っている子どもたちが水の重さ・水くみの大変さを実感でき、自発的に節約したり、無駄遣いをする友だちに注意さえするようになったりします。

「KID's work」と立ったまま手伝おうとしな

新しいチャレンジにも取り組んでいます。引きこもりの若者の支援です。

「KID's work」は、と立ったまま手伝おうとしな

ます。ユニークなのは14年に始めた「ゆるキャラ」のボランティア。「北九州市には20以上のゆるキャラがいるが、活躍の場が少なく、着ぐるみが余っている」という話を聞き、引きこもりの若者たちが着ぐるみに入ってイベントを盛り上げる企画を同市に提案、協働事業を立ち上げました。着ぐるみなら相手と直接目を合わせなくても良いので彼らにもハードルが低く、接客の練習になるためです。

のようでした。

彼は成長する過程において自分で考え、自分で決め、仲間と共に何かをつくり上げる機会を、大人によって奪われてきた存在。つまり「伍切りを使えない」子どもの未来の姿ではないか。

そんな危機感を持った「KID's work」では今、引きこもりの若者が社会から必要とされる機会づくりの活動に取り組んでい



馬島のキャンプに参加した子どもたち

118月

原則毎週月曜掲載